常磐東小学校　校長だより

常なる磐

つねなる　いわ　seasonⅢ

令和　５年　２月 24 日(金)

その２　通算 309 号

◇ 心が救われた一言

肌に感じる寒気は随分と穏やかになってはきたものの、乾燥した空気は相変わらず。校長室の加湿器もフル稼働状態である。冬季は空気の乾燥に加え、室内外の寒暖差も大きく、気をつけていても体調を崩しやすい。子供も大人も同じだ。

そうした中、担任の先生たちは、インフルエンザワクチンの早期予防接種など、冬季は特に体調管理に細心の注意を払ってくれているのは有難いことである。

それでも、教師はスーパーマンではない。致し方ない時もある。大事なことは長期化しないこと。体調が悪い時は治療を最優先し、回復に努めるよう伝えている。

それでも担任の先生がいないのは、ちょっとしたピンチであるのも事実だ。

先週のことだ。

土曜日の段階で２年１組担任の飯田先生が体調不良である事実を把握した。流行性の風邪でひと安心したものの、月曜日まで微熱傾向は継続。月曜日の休養を指示する。

「小さなピンチ」と表現したが、これは「児童が学校で過ごす普段と異なる環境」が心理的な影響を及ぼすことを意味する。それでも２年１組は心配いらない。なぜなら、多くの授業が複数教員（T・T）で行っている環境にあり、特に心強いのが２年２組担任のベテラン加藤先生と昨年から児童をよく知る島田先生が T・T を担っているという点である。自分や教頭先生が代役で入るのとでは、訳が違う。

自分も教頭先生も安心しきっていたところ、加藤先生が思わぬ本音を漏らした。

『ちょっと心配だなあ…。子供たちは受け入れてくれるかなあ』

体は大きいが神経は細やか。自分と同じで、加藤先生は繊細なのである。

思いもよらぬ一言を加藤先生がぽろっと漏らすものだから、少し長めに教室の様子を窺ってみたものの、子供たちも、加藤先生も、普段と全く変わらない。

さすが加藤先生。任せて安心。何事もなく、いつもどおりに月曜日を終える。

翌日は島田先生も出勤されるし、『仮に飯田先生が回復しなくとも体制はできた』と、さらにひと安心し、加藤先生を校長室に呼んで話をする。

自分：おつかれさま。　心配していたようですが、全く問題なかったですね。
飯田先生の回復次第ですが、もしお休みされたら、明日も頼みますね。

加藤：はい、分かりました。
校長先生、ちょっとお話があるんですが、ちょっとよろしいでしょうか。

自分：いいですよ。何か心配事があるんですか。

加藤：ありません。心配ではなく、むしろちょっと元気が出ました。

自分：ほう。　どうしたんですか。

加藤：２年生の子供たちなら、代役担任として自分を受け入れてくれると思っていたのですが、「『いやだなあ』と思っているかもしれないけど、今日は、加藤先生が担任です」と、子供の前で、ついロに出てしまいました。

自分：それで。

加藤：すると、すぐに全員が否定したんです。『そんなこと言う訳ないじゃん』
その言葉で、今日一日、ちょっと気持ちよく過ごせました。

自分：じゃあ、これからも、どんどん代役を頼みますね。

加藤：それはあぁぁぁぁ……ちょっとおぉぉぉぉ……。

教員なら誰しも、加藤先生の気持ちは十分すぎるほど理解できる。

心配したことも、ついロに出てしまった言動も、児童の発言の喜びも、

そして、その日一日中、気持ちが晴れやかだったことも。だから教師はやめられない。

PS：加藤先生は温かく、面白い。そして「ちょっと」がロ癖なのがちょっとした特徴。